

# 石垣(下段)姿見せる!



今年度の調査に着手して3ヶ月が経過した9月下旬、主郭地区M3区(ポンプ施設の下付近)で石垣がようやく姿を見せはじめました。

これまでの調査から、主郭(本丸)の周囲の斜面には2段あるいは3段の段築状の石垣(または岩盤の石壁)が築かれていることが判って

きていましたが、今回確認できたのは下段(2段目)の石垣の一部であると思われます。

石垣は1石が50~70センチ角の石で、基底部から2段分がのこっている状態です。傾きが70度以上と急で後世の石垣のように反りはなく直線的です。各石とも平らな面を表側に向けて外観を意識して積んでいます。上段と比較すると小ぶりの石垣ですが、それでも450年前の工事に従事した人々の丁寧な仕事ぶりがよくわかります。



## 発掘ひとくちメモ

### 〜「織豊系城郭」とは?〜

ひとくちにお城といっても、細かい区分があります。この小牧山城は、「織豊系城郭」という種類のお城です。織田信長・豊臣秀吉政権下で成立した築城技法により作られた城を指し、それまでの中世城郭からは一線を画した技術と思想によって築かれ、後の近世城郭に大きな影響を与えたといわれています。